

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法I						
担当教員	作井 恵子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	英語科の指導に関する基本的な知識と技能の習得。						
授業の概要	英語科教育に関する基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図る。講義と模擬授業等の演習を中心に進める。中学校・高等学校の教材を基に学習指導案を作成し、模擬授業を行い実践的な指導方法を体得する。						
到達目標	英語教育に関する知識、考え方、基本的な指導技法を身につけ、教育実習や学校現場での指導に生かすことができる。						
授業計画	<p>第1回 英語科教育法の履修にあたって</p> <p>第2回 英語科教員に求められる資質と能力</p> <p>第3回 中学校学習指導要領のねらい</p> <p>第4回 中学校学習指導要領（英語版）</p> <p>第5回 高等学校学習指導要領のねらい</p> <p>第6回 高等学校学習指導要領（英語版）</p> <p>第7回 日本における英語教育の歴史</p> <p>第8回 英語科教授法の分類と特徴</p> <p>第9回 英語教育と国際理解教育</p> <p>第10回 テストと評価</p> <p>第11回 Can-doリストの作成と活用</p> <p>第12回 中、高等学校における英語教育の実際（ゲストスピーカー講義）</p> <p>第13回 先輩に学ぶ（中学校教育実習生の模擬授業）</p> <p>第14回 先輩に学ぶ（高等学校教育実習生の模擬授業）</p> <p>第15回 前期のまとめと定期試験</p> <p>第16回 授業観察の在り方、観点</p> <p>第17回 授業展開の実際（中学校授業観察）</p> <p>第18回 授業展開の実際（高等学校授業観察）</p> <p>第19回 デジタル教科書の活用</p> <p>第20回 中学校の教材研究</p> <p>第21回 中学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第22回 中学校の模擬授業1</p> <p>第23回 中学校の模擬授業2</p> <p>第24回 高等学校の教材研究</p> <p>第25回 高等学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第26回 高等学校の模擬授業1</p> <p>第27回 高等学校の模擬授業2</p> <p>第28回 模擬授業の点検</p> <p>第29回 教育実習への心構えと準備</p> <p>第30回 後期のまとめと定期試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業と並行して、英語教員として必要な英語力（コミュニケーション能力、読解力はもとより、文法、語彙、語法）を身につける。						
授業方法	講義 中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、ゲストスピーカーによる講義や先輩の教育実習参加者による模擬授業と、中学校・高等学校での授業参観を予定している（交通費は自己負担）。						
評価基準と評価方法	学習指導案作成と模擬授業30%、定期試験40%、平常点（提出物、意欲、態度）30% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	「新英語科教育の基礎と実践 授業力のさらなる向上を目指して」 JACET教育問題研究会編（三修社）						

参考書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」(開隆堂) ¥69+税 ISBN978-4-304-04161-7 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(開隆堂) ¥150+税 ISBN978-4-304-04164-8 文部科学省検定済教科書(中学校)「ONE WORLD English Course」1, 2, 3(教育出版) 文部科学省検定済教科書(高等学校)「CROWN English Communication I」(三省堂)
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法II						
担当教員	作井 恵子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得理論に基づいた語学教育をテーマとし、これについて基本的知識を習得しながら英語科教育法の実践に発展させることを目標とする。						
授業の概要	第二言語習得理論が観点から、英語の基本学習活動（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）について学び、それを土台にして各学生がそれぞれ効果的な指導法を模索していけるよう、実践的な訓練を行う。						
到達目標	第二言語習得理論についての概要を説明することができる。 またこの各理論がどう実践に応用できるかを考察する。						
授業計画	第1回 第二言語習得理論 概論 第2回 文法とは？ 第3回 第二言語習得理論からみたリーディング 第4回 リーディング教授法 第5回 第二言語習得理論からみたリスニング 第6回 リスニング教授法 第7回 すぐれた教授法（DVDをみて） 第8回 これからの中学校・高等学校教員にも求められる英語力（ゲストスピーカー） 第9回 中学校・高等学校教員における指導について：ライティング 第10回 第二言語習得理論からみたスピーキング 第11回 スピーキング教授法 第12回 評価方法について 第13回 模擬授業および総括 第14回 音読、ティームティーチング、学級運営について 第15回 まとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	第二言語習得理論に関しては、教科書および参考書を予習、復習として熟読し、授業に臨むこと。 模擬授業に関しては、教案作成、教材開発などを授業外で準備し、実践訓練に臨むこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート 30% 定期試験 40% 模擬授業 30%						
教科書	大喜多喜夫「英語教員のための授業活動とその分析」（昭和堂）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法III						
担当教員	作井 恵子						
学期	前期/1st semester	曜日・時間	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語科指導に必要な知識を蓄積し、実践的な指導法を身につける						
授業の概要	英語科教育法I, IIで得た知識を総括し、教授法についての知識をさらに深める。模擬授業を通し実践的な教授力を身につける。						
到達目標	英語科において必要な教授法の基礎知識について説明できる。 学年、教材を想定したうえで、教案を作成し模擬授業を行うことができる。						
授業計画	Week1. 英語教育学について Week2. 国際化時代の英語教育 Week3. 共通語としての英語 Week4. 中学学習指導要領 Week5. 高校学習指導要領 Week6. 学習者について（認知的要因および動機付け） Week7. 教師について1（教員に必要な英語力） Week8. 模擬授業（高校1） Week9. 模擬授業（高校2） Week10. 模擬授業（中学1） Week11. 教師について2（教員に必要な英語指導力） Week12. 模擬授業（中学2） Week13. 教授法についての総括 Week14. 教科書と教材研究 Week15. 総復習/まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業計画に従って、当該の予習をしていくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点（模擬授業、発表）50% 定期試験 50%。						
教科書	「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」望月昭彦 編著、大修館書店						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	秋田 久子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験を意義深いものとするために						
授業の概要	中学校教諭の普通免許状を取得するためには、介護等体験を行うことが法律によって義務付けられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することを願っている。この研究では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護・援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護等体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害を持った生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションの取り方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。						
到達目標	各施設で迷惑をかけないで、目的にあった充実した実習ができること						
授業計画	第1回 制度の意義と内容 第2回 介護体験で何を学ぶか 第3回 社会福祉の意義「障害者の自立」 第4回 特別支援学校における教育 第5回 特別講師による講演 「介護の実践と留意点」 第6回 高齢者の福祉と介護 第7回 介護等体験の心得および諸注意  第8回～14回 学校及び施設への訪問と視察指導  第15回 体験修了者の反省と課題発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	第8回から第14回までを各施設（特別支援学校、高齢者福祉施設）での7日間の実習を当てている						
授業方法	講義および実習						
評価基準と評価方法	レポート(80%)によるが、授業への取り組みの姿勢(20%)を考慮する						
教科書	介護等体験ハンドブック三訂版 現代教師養成研究会編 大修館書店						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法I						
担当教員	奥井 一幾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -課程論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、まず、家庭科成立の経緯などに関する教科変遷、国際的な動向を含めた現状について学ぶ。次に、学習指導要領における目標や内容等の基本的事項、家庭科の教科特性や学習課題の確認を行い、家庭科の授業づくりを行う上での基礎的知識を確認する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の教科目標を述べることができる</li> <li>・学習指導要領の構成を理解し、必要に応じて引用・活用ができる</li> <li>・家庭科の学習課題と生活問題との関連について述べるができる</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 家庭科を振り返る 第2回 家庭科成立の歴史的経緯 第3回 世界の家庭科 第4回 学習指導要領① 構成と教科目標 第5回 学習指導要領② 学習指導案と評価 第6回 家庭科カリキュラムの視点と構想① 青年期の発達課題と家庭科の学習目標 第7回 家庭科カリキュラムの視点と構想② 学習課題・領域マトリクスと学びの構造図 第8回 第1～7回内容の試験①及び講義前半のまとめ 第9回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる① 生活自立と家庭科 第10回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる② 共生と家庭科 第11回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる③ 生活主体と家庭科 第12回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる① いのち教育と家庭科 第13回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる② 食と家庭科 第14回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる③ 衣・住と家庭科 第15回 試験②と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：各授業について、テキストの該当ページを事前に一読すること。 授業後：授業で学んだことについて、要点をノートに整理し、不明な点は速やかにテキストで確認するか、質問などをして知識を補うこと。						
授業方法	講義形式。学習内容に応じて適宜グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。						
評価基準と評価方法	試験2回（70%）、小レポート(20%)、授業参加態度・ワークシート記入状況（10%）などにより総合的に評価する。						
教科書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む。2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ¥2,400(税別) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭科編-. 2008. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-234-4 C3037). ¥76(税別) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭科編-. 2010. 開隆堂. (ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ¥267(税別)						
参考書	佐藤文子編著、中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-. 2009. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-843916-6). ¥1,800(税別) 石井克枝編著、高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-. 2010. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-850820-6). ¥1,800(税別)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法II						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -教材論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、教材開発を中心に、家庭科の授業づくりの一連を確認する。その中で、学習指導案の作成において必要な知識を身につけるとともに、作成した教材の発表を通じて「家庭科指導法Ⅲ」につながる授業実践の基礎を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科における教材、教具の意義について述べることができる</li> <li>・授業での活用を意図した教材開発を行い、その概要を分かりやすくまとめ、発表することができる</li> </ul>						
授業計画	第1回 講義ガイダンス（家庭科1の学びの振り返り） 第2回 学校教育現場での授業参観（於：松蔭中高） 第3回 学校教育現場での授業参観（於：松蔭中高） 第4回 教材とは 第5回 食分野における教材活用の例 第6回 家族分野における教材活用の例 第7回 衣・住分野における教材活用の例 第8回 消費生活分野における教材活用の例 第9回 各活用事例についての検討会（ディスカッション形式） 第10回 家庭科教材とアクティブ・ラーニング 第11回 教材作成と発表① 第12回 教材作成と発表② 第13回 作成した教材について検討会（ディスカッション形式） 第14回 作成した教材の改善（Plan Do Seeの視点から） 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。 授業後：講義内で終えることができなかった課題については、講義外の時間を活用し各自で積極的に取り組むこと。						
授業方法	講義と演習形式						
評価基準と評価方法	教材についてのプレゼンテーション2回(60%)、授業課題取組み状況・ワークシート記入状況(40%)で総合的に評価する						
教科書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭科編-. 2008. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-234-4 C3037). ¥76(税別) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-. 2010. 開隆堂. (ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ¥267(税別)						
参考書	荒井紀子編著. 新版 生活主体を育む. 2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ¥2,400(税別) 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編. 考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-. 2014. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037). ¥2,600(税別) 佐藤文子編著. 中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-. 2009. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-843916-6). ¥1,800(税別) 石井克枝編著. 高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-. 2010. 明治図書. (ISBN: 978-4-18-850820-6). ¥1,800(税別)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法III						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -授業論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業実践に必要な知識・技能を身につける。また、教育実習を見通した模擬授業の検討も行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業について批判的検討ができる</li> <li>・題材設定から本時の授業までを視野に入れた学習指導案（細案）が作成できる</li> <li>・自分が作成した学習指導案に基づき、模擬授業が実践できる</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス（家庭科1、2の振り返り） 第2回 学習課題・領域マトリクスと学びの構造図について 第3回 家族領域授業検討 「幼児を招こう」の授業（中学校） 第4回 住領域授業検討 「まちづくりを考えよう」の授業（高校） 第5回 領域横断的授業検討 「炊き出し応援隊」の授業（中学校） 第6回 領域横断的授業検討 「年金と生活経済」の授業（高校） 第7回 模擬授業立案① 題材の選定と指導案作成 第8回 模擬授業立案② 指導案作成と質疑応答 第9回 模擬授業立案③ 指導案作成と批判的検討 第10回 模擬授業立案④ 指導案作成と模擬実践 第11回 模擬授業と検討会① 第12回 模擬授業と検討会② 第13回 模擬授業と検討会③ 第14回 模擬授業と検討会④ 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。 授業後：授業時間で補えない内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。						
授業方法	講義と演習形式						
評価基準と評価方法	レポート課題2回(60%)、授業課題取組み状況・ワークシート記入状況(40%)						
教科書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む。2013. ドメス出版。(ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ¥2,400(税別) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭科編-. 2008. 教育図書。(ISBN: 978-4-87730-234-4 C3037). ¥76(税別) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-. 2010. 開隆堂。(ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ¥267(税別)						
参考書	佐藤文子編著. 中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-. 2009. 明治図書。(ISBN: 978-4-18-843916-6). ¥1,800(税別) 石井克枝編著. 高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-. 2010. 明治図書。(ISBN: 978-4-18-850820-6). ¥1,800(税別) 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編. 考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-. 2014. 教育図書。(ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037). ¥2,600(税別)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅳ						
担当教員	奥井 一幾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -評価・分析論-						
授業の概要	本科目は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業の評価・分析を中心に学ぶ。具体的には、教育実習において各自が行う授業を取り上げ、授業目標に適合した評価のあり方や授業展開等に関する学生同士の検討を通じ、自らの授業についての学習指導案の作成及び模擬授業を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業目標に適合した評価計画を作成することができる。</li> <li>・ 授業評価・分析によって得られた情報から、改善授業案（学習指導案）を作成することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス（家庭科Ⅰ～Ⅲの学びの振り返り） 第2回 家庭科をめぐる最新の教育動向 第3回 家庭科とアクティブ・ラーニング 第4回 学習指導案作成（実習で担当する箇所について、評価規準の確認を中心に） 第5回 学習指導案と題材開発（参考指導案の選定） 第6回 学習指導案と題材開発（指導案の作成） 第7回 食領域の模擬授業 第8回 食領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第9回 衣・住領域の模擬授業 第10回 衣・住領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第11回 消費生活領域の模擬授業 第12回 消費生活領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第13回 家族領域の模擬授業 第14回 家族領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。 授業後：授業で理解が不足していた内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。						
授業方法	講義形式。学習内容に応じて適宜グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。						
評価基準と評価方法	教育実習で担当する授業の学習指導案（60%）、授業参加態度・ワークシート記入状況（40%）などを総合的に評価する。						
教科書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む。2013。ドメス出版。（ISBN：978-4-8107-0787-8 C0036）。¥2,400（税別） 文部科学省。中学校学習指導要領解説-技術・家庭科編-。2008。教育図書。（ISBN：978-4-87730-234-4 C3037）。¥76（税別） 文部科学省。高等学校学習指導要領解説-家庭編-。2010。開隆堂。（ISBN：978-4-304-04166-2 C3037）。¥267（税別）						
参考書	佐藤文子編著。中学校新学習指導要領の展開-技術家庭科 家庭分野編-。2009。明治図書。（ISBN：978-4-18-843916-6）。¥1,800（税別） 石井克枝編著。高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-。2010。明治図書。（ISBN：978-4-18-850820-6）。¥1,800（税別） 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編。考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-。2014。教育図書。（ISBN：978-4-87730-339-6 C3037）。¥2,600（税別）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校教育心理学／教育心理学						
担当教員	榊原 久直						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育の心理学						
授業の概要	<p>教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者によい影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみ起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。</p>						
到達目標	<p>教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につける。          ①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤いじめ等の諸問題への対処法、⑥発達アンバランス(発達障害)</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 教育の心理学とは          第2回：世界を捉える枠組みの発達を学ぶ ～認知発達の諸理論～          第3回：心の発達を学ぶ ～情緒発達の諸理論～          第4回：人はどのように“考える”のか          第5回：“やる気”ってどうやって出るのだろうか          第6回：子どもを取り巻く環境          第7回：学び方の多様性          第8回：学びの雰囲気を考える          第9回：どのように子どもを評価するのか          第10回：発達の凸凹がある子どもの学び ①ASD          第11回：発達の凸凹がある子どもの学び ②LD, ADHD          第12回：学校に行くのが怖くなる時          第13回：いじめを巡って          第14回：家庭環境を巡って          第15回：授業全体の振り返りと期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>ボランティア等で実際の子どもたちやその家族、教員らと関わる機会をもって自ら考えながら学ぶ機会を積極的に持つことが望まれる。また新聞やニュース、書籍などから子どもやその学びを取り巻く様々な情報に関心を持つことを期待する。</p>						
授業方法	主に講義形式を用いるが、授業中にワークやグループ学習を用いることもある						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30％／中間発表(30％)／期末レポート(40％)						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	鎌原雅彦・竹綱誠一郎(2005) やさしい教育心理学[改訂版]. 有斐閣アルマ. ISBN : 4-641-12259-8						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校教育心理学／教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育の心理学						
授業の概要	<p>教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者により影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみに起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。視聴覚教材を併用する。</p>						
到達目標	<p>教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につける。①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤いじめ等の諸問題への対処法、⑥発達アンバランス（発達障害）</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わかる喜び学ぶ楽しさ</li> <li>2. エリクソンの生涯発達論</li> <li>3. ピアジェの認知発達</li> <li>4. 思春期・青年期</li> <li>5. 社会性の発達</li> <li>6. 社会心理学からみた「いじめ」</li> <li>7. 「いじめ」を生まないために</li> <li>8. 学習と記憶</li> <li>9. 不適応、不登校</li> <li>10. 教室での発達障害（LD、ADHD）</li> <li>11. 教室での発達障害（ASD）</li> <li>12. 頭の良さとは何か</li> <li>13. 生徒の心理アセスメント</li> <li>14. 教師の心理、リーダーシップ</li> <li>15. 学級集団 筆記試験（持ち込み不可）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の予告テーマに沿った文献調べ（インターネット等を含む）と、授業中にとったノートの復習						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材利用						
評価基準と評価方法	<p>平常点（70%）と学期末の筆記試験（30%）により評価を行う。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点を考慮する。 成績不振による再テストは行わないが、テスト当日やむを得ない事情で欠席した人は、連絡の上、再受験できる場合がある。</p>						
教科書	サブノート形式のプリントを出来るだけ配布します。						
参考書	タイトルに「教育心理学」が含まれる書物						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校ボランティア実習						
担当教員	奥井 一幾						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	スクールサポーターとしての学校支援ボランティア活動						
授業の概要	スクールサポーターとして、学校教育現場で、定期的にボランティア活動を行う。内容は、児童生徒の学習支援や学校行事の運営補佐等、配属校のニーズに応じた多岐に亘る活動となる。本活動によって得られた体験については、レポートにまとめる。これら一連の活動は「実習」として捉え、受講生は、本実習を通じて教職を志す者としての自覚を形成し、主体的な学習意識を高めることが期待される。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育現場の実態に応じた活動に積極的に取り組むことができる</li> <li>・教職を志す者としての自覚や学習への主体性を高めることができる</li> </ul>						
授業計画	<p>【実習前の講義】 本講義のガイダンスを行う。主な内容は、児童生徒への理解と接し方、挨拶、服装、自己紹介の仕方、教育支援の方法、報告書の書き方、安全管理及び配慮、守秘義務の厳守等についてである。</p> <p>【配属校での観察実習（15回以上）】 定期的に実習を行う。活動毎に、必ず報告書を書き、その日に経験したこと、学んだこと等について詳細な記録をとる。各自の活動については、担当教員が配属校へ巡回訪問・実地指導を行う場合がある。</p> <p>【実習後の講義】 各自の活動報告及び反省会を行う。活動を通して感じたこと、考えたこと、学んだことについて、報告書をもとにレポートとしてまとめる。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前：配属校の特色、教育目標や活動内容等について事前にインターネットや書籍を通じた情報収集を行う。 事後：活動毎の報告書は実習後、記憶が鮮明なうちに速やかに記入する。						
授業方法	各配属校での実習活動、講義と講話、グループ討論						
評価基準と評価方法	報告書の記入状況(60%)、配属校担当教員の評価(30%)、レポートの内容(10%)						
教科書	実習活動状況に応じてその都度配布する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程総論／教育課程論						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	教育課程の編成						
授業の概要	学校教育において何をいつどのように教え学ぶのかという問いに関わるのが教育課程（カリキュラム）である。本講義では、教育課程の編成に関する基本的な概念を検討したうえで、日本における教育課程の歴史的変遷について考察する。教育課程を問うとは、学校の教育内容の選択・組織という視点をもとに、学校教育のあり方そのものを問いなおすことでもある。						
到達目標	学校の教育課程の編成に関する基本的な理論を理解することをめざす。具体的には、以下の2つを主な内容として取り上げる。1. 教育課程の編成原理、2. 日本における教育課程の歴史的変遷						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程とは何か（時間割から、小・中・高の教育課程を概観する）</li> <li>2. 教育課程の編成原理（学問中心主義と子ども中心主義）</li> <li>3. 教育課程の構造1（教科学習と総合学習、学力とは何か）</li> <li>4. 教育課程の構造2（教科学習と生活指導）</li> <li>5. 学習指導要領に見る教育課程の変遷1（戦後民主主義と経験主義）</li> <li>6. 学習指導要領に見る教育課程の変遷2（経済発展と教育内容の現代化）</li> <li>7. 学習指導要領に見る教育課程の変遷3（ゆとりと生きる力）</li> <li>8. 試験と講義全体の振り返り：学習指導要領改訂に向けた議論の確認</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所について予習をする。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める。						
授業方法	講義形態による授業に加えて視聴覚教材を活用するなど、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	平常点30%（授業時の小レポートなど）、試験70% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	使用しない。プリント資料を配布する。						
参考書	田中耕治他『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年 田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第3版）有斐閣、2011年						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	秋田 久子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの学校に求められるもの						
授業の概要	生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践を目指し、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢化時代、生涯学習時代、高度情報化時代の中での今後の教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。						
到達目標	学校現状と課題を理解し、教育経営を法規上で解釈することができる						
授業計画	第1回 教育経営の概説 第2回 学校経営と教育目標 第3回 学校の組織の構築 (KJ法) 第4回 発表と検討 第5回 学校の組織と経営の実態 第6回 戦前、戦後の教育制度 第7回 義務教育制度 第8回 現代の諸課題 第9回 教育法規の基礎と概説 第10回 学校の管理運営と法規 第11回 学習指導要領と法規 第12回 教職員の服務と法規 第13回 生徒指導と法規第1回 第14回 生徒指導と法規第2回 ゲストスピーカーによる講義 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習 (準備学習の内容)	課題学習と法規演習						
授業方法	講義とグループ討議、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	定期試験を主資料 (60%) として、レポート (20%) 発表の成果 (10%) や授業への取り組み姿勢 (10%) を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行う						
教科書	教育原理 教師養成研究会編 (学芸図書)						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原論／教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析しよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代的な学校教育制度の成り立ちと構造を説明する。</li> <li>2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で考える。</li> <li>3. カウンセリングマインドを手法と背景から理解する。</li> <li>4. 教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。</li> <li>5. 「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すでに学習してきた内容を教育学の概念で反省的に振り返る。</li> <li>2. 教育学理論のうち保育や教育に役立ちそうな部分を活用する。</li> <li>3. 問いと答え、論理とデータを兼ね備えたレポートを発表する。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業概要とアイスブレイク</li> <li>2. 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づくズレと理由は？</li> <li>3. 高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史</li> <li>4. 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？</li> <li>5. 学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？</li> <li>6. 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？</li> <li>7. 学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾に勝てるか？</li> <li>8. カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター</li> <li>9. カウンセリングマインド(2)：中国の小学校って？</li> <li>10. 教育評価を振り返る(1)：相対と絶対を比べると？</li> <li>11. 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階</li> <li>12. 教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育</li> <li>13. 教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として</li> <li>14. 教育原論を実践する：グループ発表と相互コメント</li> <li>15. まとめ：レポート返却と成績説明</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書を解説しますが各自でも読んでください。</li> <li>2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。</li> <li>3. 最後のレポートに楽しんで取り組んでください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は講義を主に進めます。</li> <li>2. 後半は活動を取り入れます。</li> <li>3. 途中で映像も折り込みます。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など）</li> <li>2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）</li> <li>3. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価します。</li> </ol>						
教科書	『サヨナラ、学校化社会』上野千鶴子、筑摩書房、978-4-480-42460-0。						
参考書	教科書は指定しつつ、必要な資料を配付し、参考文献も紹介します。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	奥井 一幾						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	これまでの教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、各々、学校教育現場において授業やクラス運営などの実習を行う。						
授業の概要	実習に際しては、十分に題材開発（教材研究）を行い、よく授業計画を練って、真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすこと。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習授業の教材研究の成果を生かし、授業計画にも基づき授業が実践できるようになる。</li> <li>・生徒指導や学習指導に熱心に取り組めるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 教育実習の事前指導（実習の心得） 第2回 教育実習の事前指導（実習上の注意・指導） 第3回 実習校訪問（挨拶） 第4回 実習校訪問（打ち合わせ、諸注意） 第5回 実習校でのオリエンテーション（学校の概要・特色） 第6回 実習校担当教諭との打ち合わせ（指導方針の確認） 第7回 教育実習（観察・見学） 第8回 教育実習（題材開発、教材作成、学習指導案の作成） 第9回 教育実習（学習指導・生徒指導） 第10回 教育実習（「教育実習記録」の記入） 第11回 研究授業 第12回 研究授業の反省 第13回 事後指導（実習終了後の反省やまとめ） 第14回 事後指導（教育実習記録の記入） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	題材開発（教材研究）や授業計画作成など						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告(80%)、「教育実習記録」の記入状況(20%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	作井 恵子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	学校現場で教科指導、生徒指導を実地に学び、教員としての資質、能力を習得する。						
授業の概要	教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。						
到達目標	学校現場で教科指導、生徒指導、学級指導の実際を身につけ、様々な場面で生徒に対応できるようにする。						
授業計画	<p>授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等）</li> <li>・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等）</li> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等）</li> <li>・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等）</li> <li>・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒に話す材料や指導に役立つ資料等を常に収集し、実習に生かせるよう努める。授業はもとより学校生活全体を通して、先生方やほかの実習生からも積極的に学び、資質の向上に努める。						
授業方法	各実習校における実習						
評価基準と評価方法	各実習校からの「教育実習成績報告」および各自が記入する「教育実習記録」に基に評価する。履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税 ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂）¥69＋税 ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税 ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税 ISBN978-4-304-04164-8						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	田中 まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、現場で充実した授業展開やクラス経営ができる。						
授業計画	<p>本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等)</li> <li>・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験)</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける。</li> <li>・研究授業(教育実習の総仕上げの授業)</li> <li>・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける)</li> <li>・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価(50%)、「教育実習記録」(50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	釣 年子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、充実した実習を行う。						
授業計画	<p>授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習の概要や学校の特徴、指導方針などの確認、指導教員との打ち合わせ等）</li> <li>・教育実習（観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導、生徒指導等の実習体験）</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける。</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業の反省（研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導をうける）</li> <li>・事後研究（実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成）</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価（50%） 「教育実習記録」（50%）						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	釣 年子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、充実した実習を行う。						
授業計画	<p>本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等）</li> <li>・教育実習（観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験）</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける。</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業の反省（研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける）</li> <li>・事後研究</li> </ul> <p>（実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価（50%） 「教育実習記録」（50%）						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	奥井 一幾・秋田 久子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に参加するにあたって、実習校で何をどのように学んでいきたいのか、自ら課題を課し、問題意識を持って学んでいく						
授業の概要	教育の理論と実践を結び付けるのをいかに図るか、そこからさらに新たな問題を自ら発見する 単なる知識や教育技術を学ぶだけではなく、その土地に根ざし、その人々に支えられている地域の教育力を理解する						
到達目標	知識：教育実習に先立ち、教科に必要な知識を身につける 能力：授業をどのように展開するかというスキルを身につける 態度：実習校の生徒の状況を把握し、よりよい生徒指導・学習指導ができるようになる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義と課題</li> <li>2. 教育実習の日々</li> <li>3. 教育実習生の授業（家庭科における授業のあり方）</li> <li>4. 生徒指導</li> <li>5. 教科指導（家庭科における教科指導）</li> <li>6. 先輩に聞く</li> <li>7. 授業展開の実際（家庭科における授業展開の実際）</li> <li>8. 教師のあり方と実践</li> <li>9. 教育実習を終えて</li> <li>10. 教育活動の諸課題</li> </ol> <p>第3回、5回、7回、9回は奥井が担当する 第1回、2回、4回、6回、8回、10回は秋田が担当する</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習校との連絡、見学・教材研究・学習指導案の研究						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(60%)等による総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	芝 裕子・秋田 久子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	英語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につけることを目標とする。						
授業計画	<p>第1回 教育実習の意義と課題  第2回 教育実習の日々  第3回 教育実習生の授業（英語科における授業の在り方）  第4回 生徒指導  第5回 教科指導（英語科における教科指導）  第6回 先輩に聞く  第7回 授業展開の実際（英語における授業展開の実際）  第8回 教師の在り方と実践  第9回 教育実習を終えて  第10回 教育活動の諸課題</p> <p>第1, 2, 4, 6, 8, 10回は秋田、第3, 5, 7, 9回は芝が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に英語力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポートおよび授業中の発表や「教育実習の研究ノート」の提出とその内容70%、平常点(関心、意欲、態度)30%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税 ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂）¥69＋税 ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税 ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税 ISBN978-4-304-04164-8						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	田中 まき・秋田 久子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	国語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	<p>第1回 教育実習の意義と課題  第2回 教育実習の日々  第3回 教育実習生の授業（国語科における授業の在り方）  第4回 生徒指導  第5回 教科指導（国語科における教科指導）  第6回 先輩に聞く  第7回 授業展開の実際（国語科における授業展開の実際）  第8回 教師の在り方と実践  第9回 教育実習を終えて  第10回 教育活動の諸課題</p> <p>第1, 2, 4, 6, 8, 10回は秋田、第3, 5, 7, 9回は田中が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に国語力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポートおよび「教育実習の研究ノート」の提出状況とその内容50%、授業態度（提出物、意欲、態度）50%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語編」 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	釣 年子・秋田 久子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	書道科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	第1回 教育実習の意義と課題 第2回 教育実習の日々 第3回 教育実習生の授業（国語科における授業の在り方） 第4回 生徒指導 第5回 教科指導（国語科における教科指導） 第6回 先輩に聞く 第7回 授業展開の実際（国語科における授業展開の実際） 第8回 教師の在り方と実践 第9回 教育実習を終えて 第10回 教育活動の諸課題  第1, 2, 4, 6, 8, 10回は秋田、第3, 5, 7, 9回は釣が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に教科指導力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポートおよび「教育実習の研究ノート」の提出状況とその内容50%、授業態度（提出物、意欲、態度）50%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語編」 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育相談の理論と方法						
担当教員	伊東 秀章						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育相談における臨床心理学的理論と方法						
授業の概要	本講義では、学校現場で起こるさまざまな問題に対する見立てのために必要な理論の講義と、それに伴う実践的なカウンセリング演習を行う。また、実際に学校現場で起こっている事例について検討する。グループ演習を通して、生徒や保護者、教職員の理解の仕方や働きかけ方について学ぶ。特別支援教育については、対象となる生徒の特徴の見分け方、教室での対応の仕方、支援計画の立て方、保護者対応で考慮すべき点を理解できるようにする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談やカウンセリングについて、いくつかの理論による見立てと働きかけ方の習得。</li> <li>様々な事例についてグループディスカッションを行い、生徒・教職員とのやりとりについて演習を通して理解する。</li> <li>特別支援教育における保護者や教員のニーズの捉え方、配慮すべき点、支援プログラムの立て方について。</li> </ul>						
授業計画	第1回：教育相談の役割 第2回：教育相談の概論－教育相談の枠組み 第3回：カウンセリングの基礎 第4回：教育相談におけるアセスメント（1）3分類 第5回：自律訓練法・リラクゼーション 第6回：不登校の理解 第7回：主訴と共感的理解 第8回：教育相談の面接展開と情報収集-想像力 第9回：教育相談におけるアセスメント（2）心理テスト 第10回：教育相談における働きかけ 第11回：学校臨床におけるグループダイナミクス 第12回：保護者・教員との協働－コンサルテーション 第13回：特別支援教育－行動療法によるアセスメント 第14回：特別支援教育－行動療法による支援計画と対応 第15回：教育相談まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自、講義内容を自分なりにまとめること。疑問や意見などがあれば、積極的に発信すること。						
授業方法	講義形式であるが、具体的な事例や問題を考える形式で進める。随時、グループワークやディスカッションを行なう。						
評価基準と評価方法	平常点：出席状況と講義の積極的な参加(30%) レポート：小レポートの提出(30%) 試験：期末試験による評価(40%) 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適正」の3観点で行なう。						
教科書	特にありません。						
参考書	吉川悟編（1999）システム論からみた学校臨床、金剛出版 吉川悟編（2009）システム論から見た援助組織の協働、金剛出版						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	授業づくりの基礎・基本						
授業の概要	まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に、実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりに必要な基本的な知識と技術を獲得する</li> <li>・これまでに実践されてきた授業を検討し、授業の特徴を把握できる</li> <li>・学習指導案を作成できるようになる</li> <li>・受講生同士で他者の指導案を検討し、改善に向けて議論ができる</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるかについて議論する。</p> <p>第2回 授業の構成要素（1）：教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と、実践に生かす際の留意点について学ぶ。</p> <p>第3回 授業の構成要素（2）：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点について学ぶ。</p> <p>第4回 授業の構成要素（3）：効果的な発問や板書の類型や方法について学ぶ。</p> <p>第5回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材のあり方について考える。</p> <p>第6回 教育実践事例の検討（2）：討論を取り入れた授業のあり方について考える。</p> <p>第7回 教育実践事例の検討（3）：ワークショップ型の授業のあり方について考える。</p> <p>第8回 教育実践事例の検討（4）：探究型の授業のあり方について考える。</p> <p>第9回 学習環境の工夫：効果的な学習を実現するための環境づくりについて考える。</p> <p>第10回 情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。</p> <p>第11回 学習指導案づくり（1）：学習指導案の作り方について学び、実際に作成してみる。</p> <p>第12回 学習指導案づくり（2）：学習指導案づくりを行う（前回の続き）</p> <p>第13回 模擬授業：作成した指導案に沿って授業を行い、指導案を改善する。</p> <p>第14回 子どもとの向き合い方：教師としてどのようなことに気をつけながら子どもと向き合い、教育実践を進めていくのかについて考える。</p> <p>第15回 まとめと教育改革動向の説明：能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングについて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前時に行う予告に従い、次時の授業の準備を行うこと。 授業後学習：授業内容をふりかえり、要点の整理を行うこと。また、復習の過程で質問事項が出た場合には、次の授業で質問することによって、授業内容の確実な定着をめざすこと。						
授業方法	講義（ただし、グループ活動などの演習的要素を含む）						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点50%（講義でのワークシートや小レポート、模擬授業の発表）、最終レポート50%から総合的に判断する。</li> <li>・5回以上欠席した場合には単位認定は行わない。</li> <li>・「意欲」については、講義への参加の様子や授業毎の課題などの完成度を中心に評価する。</li> <li>・「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。</li> <li>・「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。</li> </ul>						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	<p>①田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年</p> <p>②田中耕治編著『時代を拓いた教師たち―戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年</p> <p>③田中耕治『新しい時代の教育方法』有斐閣、2013年</p>						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職原論／教師論						
担当教員	秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	児童・生徒、保護者、地域から信頼され、よき同僚として協働できる教師像を追求する						
授業の概要	書籍・新聞などから教育観や教職の歴史の変遷を学ぶ。児童・生徒としての自己の体験を見つめなおし、新聞記事なども参考に、現代の教育課題について考える。児童・生徒の発信するかすかなシグナルを受信して彼らが安心して主体的な自己であり続けられるよう支援できる教員の在り方について理解を深める。子供の発達段階への理解を深め教員の受容的なあり方の意味について考える。						
到達目標	自身の適格性について考察し、教職への意欲を高める						
授業計画	第1回 オリエンテーション（専門職としての教員、教職に関する基礎知識） 第2回 教員としての生き方を探る 1 過去の教育者に学ぶ 第3回 教員としての生き方を探る 2 文芸に描かれた学校と教員 第4回 学校教育の歴史 第5回 教員の職務内容と役割・義務 第6回 教員に求められる資質・能力 第7回 教職の法制と制度 第8回 生徒が生きる時代、学力とはなにか 第9回 保護者・地域と学校 第10回 教育課程と学習指導要領 アクティブ・ラーニング 第11回 生徒指導・生徒会活動・校則と子供の権利 第12回 カウンセリング・マインドとコーチング 第13回 「総合的な学習の時間」支援的教材を作ってみる 第14回 演劇的手法を体験するー関係づくりとHR運営ーゲストスピーカーによるワークショップ 第15回 目指す教師像						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞、書籍、家族友人との会話などを通じて、教育にかかる情報や意見を入手しておく						
授業方法	講義 演習						
評価基準と評価方法	毎時間のレポートの内容と提出状況（50%）、授業やグループワークへの取り組み・発表（30%）、試験（20%）で評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	プリントを配布する 「教職論」教員を志すすべてのひとへ」教職問題研究会編 ミネルヴァ書房 ISBN4-623-03640-5 ¥2,400+税						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	奥井 一幾・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける						
授業の概要	主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う 2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める 3. 教科内容等の指導力を高める 4. 社会性や対人関係能力を伸ばす						
到達目標	教員になるという前提での自己分析ができる 教員としての使命感や責任感を感じる 生徒指導や学級経営の知識と技能がつく 模擬授業を通して教科の指導力がつく 社会人としての基本的態度や協調性がつく						
授業計画	第1回 履修カルテへの記録と気付き 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)と発表 第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回 教育実習を体験して分かった課題（家庭科について） 第9回 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業案検討 第10回 グループワークを通じたアクティブ・ラーニング 第11回 個人・ペアワークを通じたアクティブ・ラーニング 第12回 教科（家庭科）の学びを総括する 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレー 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：グループワーク 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認  第1～7回及び第13～15回は秋田、第8～12回は奥井が担当する。 ゲストスピーカーの講義日程については予定であるため前後することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業などの教材開発、指導案の作成、生徒用ポートフォリオの作成、評価テストの作成等						
授業方法	講義、演習						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%) 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)						
教科書	無し						
参考書	適宜に担当教員が作製し配布する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	芝 裕子・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教育実習の経験を踏まえ、学校現場に対応できる資質・能力を伸長する。						
授業の概要	<p>主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイなどを組み合わせて実際の教育現場を想定し、下記の教育問題を取り上げる。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題  ②生徒理解や学級経営力等に関する課題  ③教科内容等の指導力に関する課題  ④社会性や対人関係能力に関する課題</p>						
到達目標	<p>これまでの授業や教育実習を通して身につけた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかを最終的に確認する。この科目の履修を通じて、将来、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。</p>						
授業計画	<p>第1回履修カルテへの記録と気づき  第2回教師の使命感と責任  第3回教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表  第4回生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究  第5回生徒指導2：保護者の要望などへの対応などの事例研究  第6回：ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義・討論  第7回学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイ  第8回教育実習を体験して分かった弱点(教科指導)の自覚と発表  第9回授業構成の改善：研究授業の教案の提示と改善  第10回模擬授業1:教材などの活用と話し方など表現力のチェック  第11回模擬授業2:形成的評価の観点など  第12回テストと評価の方法  第13回社会人としての基本的態度と組織における協調性1:ロールプレーとロールレタリング  第14回社会人としての基本的態度と組織における協調性2:ゲストスピーカーによる講演  第15回改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p> <p>第1～7回及び第13～15回は秋田、第8～12回は芝が担当する。  ゲストスピーカーによる講義の日程については予定であるため、前後することがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>教育に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、当該の問題について自分ならどのように対処するかを考える。  専門である英語についてコミュニケーション能力、読解力、文法・語法・語彙、文化的背景の習得に努める。</p>						
授業方法	講義、演習、発表、ロールプレイなどを組み合わせて行う。						
評価基準と評価方法	毎時間の発表や提出物の内容70%、平常点（関心、意欲、態度）30%						
教科書	その都度プリントを配布する。						
参考書	<p>「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税 ISBN978-4-8278-1461-3  「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂）¥69＋税 ISBN978-4-304-04161-7  「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税 ISBN978-4-8278-1478-1  「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税 ISBN978-4-304-04164-8</p>						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	田中 まき・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して						
授業の概要	<p>主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題  ②生徒理解や学級経営力等に関する課題  ③教科内容等の指導力に関する課題  ④社会性や対人関係能力等に関する課題</p>						
到達目標	<p>学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。</p>						
授業計画	<p>第1回 履修カルテへの記録と気づき  第2回 教師の使命感と責任  第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表  第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究  第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究  第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論  第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング  第8回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導)の自覚と発表  第9回 授業構成の改善：研究授業の学習指導案の提示と改善  第10回 模擬授業1：教材などの活用と話し方など表現力のチェック  第11回 模擬授業2：アクティブ・ラーニングを取り入れた授業  第12回 テストと評価の方法  第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレーとロールレタリング  第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演  第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p> <p>第1～7、13～15回は秋田、第8～12回は田中が担当する。  ゲストスピーカーの講義日程については予定であるため、前後することがある。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	学習指導案の改善、新聞を用いた教材づくりなど						
授業方法	講義と演習・発表						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果を主資料(70%)として授業の取り組みの姿勢(30%)を加味する。						
教科書	特になし						
参考書	適宜に担当教員が作成し配布する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	釣 年子・秋田 久子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して						
授業の概要	<p>主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題  ②生徒理解や学級経営力等に関する課題  ③教科内容等の指導力に関する課題  ④社会性や対人関係能力等に関する課題</p>						
到達目標	<p>学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。</p>						
授業計画	<p>第1回 履修カルテへの記録と気づき  第2回 教師の使命感と責任  第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表  第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究  第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究  第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論  第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング  第8回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導)の自覚と発表  第9回 授業構成の改善：研究授業の学習指導案の提示と改善  第10回 模擬授業1：教材などの活用と話し方など表現力のチェック  第11回 模擬授業2：形成的評価の観点など  第12回 テストと評価の方法  第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレーとロールレタリング  第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演  第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p> <p>第1～7、13～15回は秋田、第8～12回は釣が担当する。  ゲストスピーカーの講義日程については予定であるため前後することがある。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	学習指導案の改善など						
授業方法	講義と演習・発表						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果を主資料(70%)として授業の取り組みの姿勢(30%)を加味する。						
教科書	なし						
参考書	適宜に担当教員が作成し配布する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職入門						
担当教員	秋田 久子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教員という仕事の難しさや面白さに触れ、教職を目指して歩みだそう						
授業の概要	授業では教員の視点にたって学校や教員について考えてみる。 これまでの生徒・学生の視点を生かしつつ、講義やグループ討議をもとに教員の視点で諸問題をとらえなおして教員に必要な資質能力について理解を深める。 また、どうすれば教員にふさわしい資質能力をつけることができるかを考察する。						
到達目標	学習指導や生徒指導の基本的な理論や技法と学校教育の諸問題への対応法を習得するとともに、学校運営や学級運営の実際を理解し、教員としての資質・能力を身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（教育課程で学ぶということ） 第2回 教員に求められる資質と能力 第3回 生徒・教員・学校が抱える諸問題 第4回 教科指導の在り方 第5回 生徒指導・進路指導の在り方 第6回 問題行動・不登校・発達障害の理解と対応 第7回 学校運営と校務分掌 第8回 学級運営の在り方 第9回 道徳・総合的な学習の時間・特別活動の指導 第10回 家庭・地域・関係機関との連携、コミュニティスクールについて 第11回 日本の教育制度と教員養成の歴史 第12回 教員の地位と身分 第13回 教育課程の編成と学習指導要領 第14回 学校教育にかかる法制度、試験 第15回 まとめ（今後の教職課程履修に向けて）						
授業外における学習（準備学習の内容）	一般教養、教職教養、各自の専門科目の学習に取り組むこと 教育にかかる新聞記事やニュースに関心を持ち、自分の考えを記録すること						
授業方法	事前に指示された課題についてレポートを作成する 講義及びグループ討議、発表を並行して進める A4のファイルを準備し、配布プリント、レポート、講義録を綴じ、毎回持参すること						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート提出・発表30%、授業に取り組む態度・意欲・関心30%をもとに評価を行う。 莉種カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	毎時間プリントを配布する 「改定新版 教職入門 教師への道」吉田辰雄・大森正編著（図書文化）ISBN978-4-8100-9311-7 1800円+税						
参考書	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法I						
担当教員	田中 まき						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	国語科教育の理論の習得と授業演習						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語力の向上のために、小テストを重ねる。						
到達目標	国語科教育の意義、目標等の理論を理解し、適切な授業展開ができる。						
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 国語科教育の意義について</p> <p>第2回 国語科教育の目標について</p> <p>第3回 国語科に関する教育法規について</p> <p>第4回 学習指導要領について</p> <p>第5回 コミュニケーション・プレゼンテーション力の養成1</p> <p>第6回 コミュニケーション・プレゼンテーション力の養成2</p> <p>第7回 教材研究と授業の展開の立案について</p> <p>第8回 板書計画について</p> <p>第9回 国語科教育における伝統文化の学びについて</p> <p>第10回 学習指導案作成の演習1</p> <p>第11回 学習指導案作成の演習2</p> <p>第12回 授業展開の研究1</p> <p>第13回 授業展開の研究2</p> <p>第14回 電子黒板使用の研究</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 学校現場での授業観察（事前授業）</p> <p>第2回 学校現場での授業観察1（於：松蔭中高）</p> <p>第3回 学校現場での授業観察2（於：松蔭中高）</p> <p>第4回 学校現場での授業観察（事後授業）</p> <p>第5回 国語科におけるアクティブ・ラーニングについて</p> <p>第6回 小説教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第7回 小説教材の模擬授業1</p> <p>第8回 小説教材の模擬授業2</p> <p>第9回 評論教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第10回 評論教材の模擬授業1</p> <p>第11回 評論教材の模擬授業2</p> <p>第12回 古文教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第13回 古文教材の模擬授業1</p> <p>第14回 古文教材の模擬授業2</p> <p>第15回 国語科教育についてのまとめ</p> <p>このうち【後期】第2回・第3回の松蔭中高での授業観察は9月中旬の実施となる。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	『中学校・高等学校 国語科教育法研究』東洋館出版社 田近洵一 鳴島甫 編著 ISBN978-4-491-02851-4 C3037						

参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法II						
担当教員	松山 雅子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	学習指導の根幹である教材分析力を養い、実践理論と方法から国語科授業構想の基礎を理解する。						
授業の概要	具体的な教材をもとに、授業構想の基礎理論と方法を実践的に学ぶことを目的とする。模擬授業の演習も加えながら、国語科教師の専門的力量とは何かを考えていく。						
到達目標	国語科の教育内容、教材分析、教育方法を理解し、国語科の学習指導の構想・立案ができること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション(目的と概要) 第2回 国語科教育を捉える基本的観点 1 第3回 国語科教育を捉える基本的観点 2 第4回 教材分析の基本理論と方法 第5回 教材分析の実際 1 第6回 教材分析の実際 2 第7回 読むことの学習指導—文学的文章 第8回 文学的文章の学習指導構想—書くこと/話す・聞くことと関連つけて 第9回 文学的文章を軸とした学習指導の実際—模擬授業と検討会 第10回 教材分析の実際 3 第11回 教材分析の実際 4 第12回 読むことの学習指導—説明的文章 第13回 説明的文章の学習指導構想—書くこと/話す・聞くこと関連づけて 第14回 説明的文章を軸とした学習指導の実際—模擬授業と検討会 第15回 学習者の言語環境の多様化を踏まえた国語科教育の可能性と課題—まとめにかえて						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業中に配布する資料を事前に読む。模擬授業の指導案を考える。						
授業方法	講義を中心とするが、適宜ワークショップを含み、実践的に思考する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	授業内で出題される小課題、最終課題、および授業に対する能動的な態度をもって総合的に判断する。						
教科書	授業中に随時資料を配布する。 *質問がある場合は、授業の前後で対応します。						
参考書	『新たな時代を拓く 中学校高等学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会編、学芸図書株式会社						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法III						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科教育の理論と実践の習得						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語科教育を担うのに十分な国語力を養成すべく、小テストを重ねる。						
到達目標	国語科教育の意義、目標など理論を理解し、適切な授業展開ができる。						
授業計画	第1回：国語科教育についてのこれまでの学習の確認と本授業の概説 第2回：国語科の授業分析 第3回：国語科授業における電子黒板使用の研究 第4回：電子黒板を使う授業の演習① 第5回：電子黒板を使う授業の演習② 第6回：学習指導案の作成① 第7回：学習指導案の作成② 第8回：模擬授業① 第9回：模擬授業② 第10回：国語科におけるアクティブ・ラーニングの演習① 第11回：国語科におけるアクティブ・ラーニングの演習② 第12回：国語科の評価① 第13回：国語科の評価② 第14回：国語科学習者の現状と課題 第15回：国語科教育についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40%						
教科書	プリントなど資料を配布する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法						
担当教員	釣 年子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	書道科教育法						
授業の概要	<p>高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法の習得。</p> <p>高校における芸術の授業をどう考え、実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考えてゆきます。国語科書写との関連をはかります。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察します。模擬授業を通じて実践力を高めることをめざします。書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指します。</p>						
到達目標	<p>文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法技術などを習得する。教科書の使い方の学習を通して、実技能力の向上を目指す。</p>						
授業計画	<p>1) ガイダンス（書道の先生になるために）      - 教育理念をもとう      - 塾と学校教育</p> <p>2) 書写と書道（1）- 書道教育の歴史      3) 書写と書道（2）- 筆順・反復と模写      4) 書写と書道（3）- 芸術と実用      5) 教育法規・学習指導計画・教科書の扱い方      6) 学習指導要領の検討-書道ⅠⅡⅢ（1）      7) 学習指導要領の検討-書道ⅠⅡⅢ（2）      8) 書写書道専門用語を知ろう      9) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（1）名前を書こう（楷・行・草）      10) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（2）色紙に書こう{かな・草書}      11) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（3）隷書を書いてみよう      12) 臨書について（1）見本と手本・臨と模      13) 臨書について（2）臨書の方法・形態・意義      14) 臨書について（3）古典臨書      15) 臨書について（4）古典臨書</p> <p>-----</p> <p>1) 学校現場での授業観察（事前授業）      2) 学校現場での授業観察（1）（於：松蔭高校）      3) 学校現場での授業観察（2）（於：松蔭高校）      4) 学校現場での授業観察（事後授業）      5) 学習指導の要素・方法・形態・技術（1）- 指導目標・基準・過程・形態・技術      6) 学習指導の要素・方法・形態・技術（2）- 示範・批正の学習指導      7) 学習指導の要素・方法・形態・技術（3）- 知識・理解の学習指導・評価の実際      8) 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討      9) 学習指導計画の立案（1）- 年間・単元      10) 学習指導計画の立案（2）- 毎時      11) 各自の学習指導案の検討（1）      12) 各自の学習指導案の検討（2）      13) 学生による模擬授業（1）      14) 学生による模擬授業（2）      15) 模擬授業の検討-授業のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技能力の向上は授業外でも努力を望みます。						
授業方法	講義と実技を平行して行います。						
評価基準と評価方法	出席、提出作品、授業計画の立案、レポートにおいて評価します。履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						

教科書	・高等学校学習指導要領解説芸術編（文科省） ・「書 I」（教育図書）野口白汀
参考書	書名・書道の古典（全三冊） 著訳編註名/対等文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法II						
担当教員	釣 年子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	書道科教育の理論と実践の習得						
授業の概要	書道科教育の意義、目標、方法等について講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、書道の実技力を高めるため演習を積む。						
到達目標	書道科教育の意義、目標、方法等の理論と実技力向上における指導法の習得						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 書道科教育の概説</li> <li>2) 書道科の授業分析</li> <li>3) 実際の書道科の授業についての考察</li> <li>4) 授業進行過程における問題点の確認とその対策①－目標設定について</li> <li>5) 授業進行過程における問題点の確認とその対策②－実習方法について</li> <li>6) 授業進行過程における問題点の確認とその対策③－提出の方法について</li> <li>7) 実技指導上の問題点の確認とその克服のための対策（個々の実技上の課題設定）</li> <li>8) 学習指導案の作成①</li> <li>9) 学習指導案の作成②</li> <li>10) 書道科授業の指導案検討①</li> <li>11) 書道科授業の指導案検討②</li> <li>12) 模擬授業①</li> <li>13) 模擬授業②</li> <li>14) 書道科の評価</li> <li>15) 書道科教育のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	書道科教員を目指す者として、書道実技力の向上の為の修練を怠らないこと。						
授業方法	講義と実技演習						
評価基準と評価方法	講義内容（学習指導案作成、模擬授業、レポート）40% 実技能力 60%						
教科書	プリントなど資料を配布する						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導の理論と方法／生徒指導論						
担当教員	長谷川 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒の人格形成と自己実現力の育成						
授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教科外指導（生徒指導や進路指導）のもつ比重は大きい。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を実証的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められるのである。本講では、生徒指導の意義や目的を理解し、現代の学校現場における、いじめ問題、不登校問題、体罰問題等をテーマに議論を展開し、こうした事象に対する自分なりの考えや意見を持てる力を身につけるとともに、問題解決方法を探っていくこととする。また、進路指導の内容には、文部科学省で取り上げられることの多い小学校段階からのキャリア教育の必要性やフリーターやニートに関する実態を取り上げ、キャリア・ガイダンスのあり方について言及したい。						
到達目標	生徒指導論のなかで目指すべき目標は、以下の4点である。 1. 教科指導と教科外指導との関連を理解し、生徒指導が学校の教育活動全般にわたって行われなければならない営みであることを理解する。 2. いじめや不登校などの学校病理原を例として取り上げながら、それへの対処方法を理解する。 3. 生徒たちのより適切な進路指導として、小学校段階からのキャリア教育という視点を理解し、その際の留意点等を理解する。 4. 生徒たちの発達に合わせて教育指導は行われるべきであることを理解し、学校現場におけるカウンセリングマインドの有効性について理解する。						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション 第2回 生徒指導の意義と概念 第3回 生徒指導の課題 第4回 教育課程と生徒指導 第5回 生徒理解と生徒指導 第6回 生徒の問題行動 第7回 不登校問題の現状理解 第8回 不登校問題の対応 第9回 体罰問題 第10回 いじめの歴史の変遷 第11回 いじめの今日的特質 第12回 進路指導とは何か 第13回 進路指導と職業指導 第14回 進路選択と若年未就業の問題 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	教育時事トピックスに日常から関心を持ち、理解を深めておくこと。						
授業方法	講義、グループ討議。						
評価基準と評価方法	定期試験 70% レポート 30%						
教科書	文部科学省生徒指導提要						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動指導法						
担当教員	長谷川 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫						
授業の概要	<p>学校教育における特別活動の位置づけや役割について、学習指導要領や具体的な取り組み事例等を通して理解することを目的とする。</p> <p>特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。また、教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動であるとされている。</p> <p>授業では、このような特別活動の教育的な意義をふまえながら、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、部活動及び学校行事の具体的な課題解決のための指導法について、学生参加型の授業を転換しながら検討する。</p>						
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることが出来ること（学習指導要領の内容を理解し、具体的な計画が立てられること）。						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション 第2回 特別活動の目標と意義 第3回 特別活動の内容相互の関連 第4回 学級（HR）活動のあり方と実践 第5回 グループ別研究（学級（HR）について） 第6回 個人研究（HRの年間計画） 第7回 発表と検討 第8回 生徒会活動のあり方と実践 第9回 グループ別研究（生徒会活動について） 第10回 学校行事のあり方と実践 第11回 グループ別研究（学校行事について） 第12回 発表と検討 第13回 部活動のあり方と実践 第14回 発表と検討 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習。						
授業方法	講義、グループ討議・発表。						
評価基準と評価方法	定期試験50% 研究発表30% 授業への取り組み、姿勢20%						
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳指導法						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学で組み立てよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導要領による道徳教育の位置づけを説明する。</li> <li>2. 道徳指導案を紹介しつつ、倫理学的背景を解説する。</li> <li>3. 指導案作成・模擬授業・相互評価を学生同士で行う。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育にみる道徳の役割と指導法を理解する。</li> <li>2. 道徳教育のあり方を倫理学の視点から振り返る。</li> <li>3. 学習指導要領を参考にして授業実践力を伸ばす。</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション：私語の倫理学 第2回 体験した道徳教育：グループで発表する 第3回 指導要領にみる道徳(1)：学校教育の役割 第4回 指導要領にみる道徳(2)：他教科との関係 第5回 道徳の教材研究(1)：自己との関わり 第6回 道徳の教材研究(2)：他者との関わり 第7回 道徳の教材研究(3)：集団・社会との関わり 第8回 道徳の教材研究(4)：生命・自然との関わり 第9回 倫理学から道徳をみる：身体の内面は本当か？ 第10回 模擬授業の実践(1)：自己との関わり 第11回 模擬授業の実践(2)：他者との関わり 第12回 模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり 第13回 模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり 第14回 模擬授業の実践(5)：その他との関わり 第15回 まとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書は授業でも各自でも読んでください。</li> <li>2. 模擬授業の指導案をしっかりと準備してください。</li> <li>3. 模擬授業後のレポートを早めに提出してください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は講義を基本にディスカッションも入れます。</li> <li>2. 後半は学生グループの模擬授業を中心に行います。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点30点（コメント、授業貢献など）</li> <li>2. 模擬授業40点（学生の相互評価を含む）</li> <li>3. 学期末レポート30点（模擬授業の考察）</li> <li>4. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価します。</li> </ol>						
教科書	『道徳教育はホントに道徳的か？』松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4。						
参考書	『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』						